

学 位 論 文 の 要 旨

論文題目 中国における非従来型加工農産物市場の展開と食品加工資本
(注) 題目(副題を含む。)は、提出論文のとおり記載すること。
英文のときは和訳を()内に併記すること。

広島大学大学院生物圏科学研究科
生物資源科学専攻

学生番号 D112399
氏 名 戴 容 秦 思

1 問題意識と研究目的

中国における食料市場をとりまく環境が急激に変貌するなか、加工農産物とりわけ近年になって中国国民の食生活に浸透してきた「非従来型」加工農産物に関する食品安全性問題、衛生問題が多発している。本論文では、市場展開の相違によって、加工農産物を「従来型」と「非従来型」に区別する。従来型加工農産物とは、原料となる農産物市場が中国において古くから存在し、農業から分離する形で食品加工部門の独立過程を経験し、加工製品が国民の食文化・食生活に比較的早く定着した加工農産物をさす。それと対照的に、非従来型加工農産物とは、加工製品あるいは原料となる農産物が外部から中国に導入され、新たに加工部門が産業として成立し、従来存在しなかった市場が新規展開された加工農産物をさす。これらの非従来型部門の食品工業の成長は、改革開放後にとりわけ顕著になっていることが特徴的であり、非従来型加工食品市場の拡大も著しい。ところが急成長を遂げている反面、前述したような食品安全性問題の発生など、様々な弊害が起きている。中国における経済ないし社会システムの転換は、食品加工資本の展開に大きな影響を及ぼしている。今日の中国の食品加工資本の動向を、食品産業における企業行動などきわめて断片的かつ表象的な枠を超えて、市場の変化を含めた中国経済全体のダイナミズムのなかで論じることが重要となっている。

以上をふまえ、本論文の目的は、中国における食品加工資本の展開が非従来型加工農産物市場に与える影響を明らかにすることである。

2 分析対象と研究方法

本論文では、農産物市場学的アプローチを用いる。中国で食品工業が急成長するなか、とりわけ活発的で、急速に市場を拡大しているのが非従来型加工農産物とその食品工業である。具体的に、コーヒー焙煎業(コーヒー)、ブロイラー産業(ブロイラー)、乳業(牛乳・乳製品)の3業種(加工製品)を事例として考察する。

本研究は、文献研究、統計分析、実態調査を用いる実証研究である。実態調査について観察調査、聞き取り調査、アンケート調査を実施した。それぞれの調査時期と調査地域は以下のとおりである。2009年2~3月に雲南省昆明市で観察調査、聞き取り調査を行った。2010年2~3月に同じ地域で、観察調査、聞き取り調査、アンケート調査を実施した。2011年2~3月に、雲南省保山市、徳宏州で聞き取り調査を行った。2012年9月に山東省青島市で聞き取り調査を実施した。2013年7月に四川省成都市、眉山市で観察調査、聞き取り調査、8月に雲南省昆明市でアンケート調査を実施した。2回のアンケート調査はいずれも機縁法を用いた。

3 考察と結論

本論文の目的は、非従来型部門における食品加工資本の動向が中国における加工農産物市場に与えた影響を明らかにすることであった。

「第1章 中国における食料市場の変化」では、中国の食料市場の変化とその特徴を、とくに加工食品に注目しながら明らかにすることを試みた。その結果、食料市場の変化として、第1に、食料需給構造の変化によって食料市場が拡大し、食料消費に対する選択性が急激に増加した。第2に、加工食品の消費増大が顕著にみられた。加工食品市場に注目すると、国内の原料市場と製品市場の不均衡な展開が生じていることを指摘した。食料市場の消費側の側面では、小売段階において大規模の外資系小売店の展開という動きがみられ、消費者も大規模小売店から加工食品を大量購入する点が顕著にみられた。中国の加工食品市場は、国民所得の上昇、大衆消費社会の形成を前提として形成されたといえる。

「第2章 中国食品工業の展開と食品加工資本」では、中国における食品工業の規模および食品加工資本の展開過程について、国家経済体制の転換過程および諸政策の影響をふまえながら明らかにすることを試みた。その結果、第1に、食品工業は国民経済のなかで重要な位置を占めていることが確認できた。第2に、中国の食品加工部門は、国家体制および企業体制の変化によって資本として成立し、さらに資本主義的蓄積の方向へ進展していったメカニズムを明らかにした。第3に、こうした動きはさらに政策によって推進され、一部業種の集中が現れ、グローバル化が進展していることを明らかにした。第4に、外国資本の参入も多くみられたが、依然として国有資本の市場支配力が強いことを明らかにした。これらから、中国における食品加工資本の展開に対する国家政府による政策的・資本的関与が強いことを検証したといえる。

「第3章 食品加工資本の製品市場対応」では、食品加工資本と製品市場との相互影響の解明を目的に、食品加工資本が製品市場に対する働きかけおよび対応について検討した。その結果、大規模加工資本の製品を主流とする全国统一市場の形成が確認された。それに対して、製品チャネルの特約化は、中小規模加工資本が地元での販路確保ないし固定化のために有効な手段であると指摘した。本章で明らかにした食品加工資本の製品市場対応から、大規模食品加工資本の働きかけは製品市場に大きな変化をもたらし、そうした製品市場の変化はまた、中小規模の市場対応に大きな影響を与えていることが指摘できる。

第4章および第5章、第6章では、食品加工資本がどのような原料調達行動をとり、原料生産にどのような影響を与えているのかを、牛乳、コーヒー、プロイラーという3つの非従来型農産物を取りあげ明らかにすることを試みた。

まず、「第4章 乳業資本の原料調達構造と生乳生産者」では、乳業資本の原料調達構造とその生乳生産者への影響を明らかにした。その結果、第1に、契約生産のパターンが最も多くみられた。第2に、乳業による原料生産部門の統合の度合いは、乳業資本がどれだけ原料生産段階へ資本投下をしているかということと正比例している。第3に、生乳生産側にとって、契約生産の問題点は主に、生産資材面および原料価格面における自由度の低さと交渉立場の弱さにある。現在の酪農部門ではまだ十分進んでいない農業生産資材の共同調達・利用ができる農民的生産者組織の結成が今後より重要となってくる。

「第5章 コーヒー生産の展開と加工資本の原料調達」では、中国におけるコーヒー生産の展開と加工資本による原料取引の実態を明らかにした。その結果、第1に、生果実チェリーを原料として買取る加工資本による契約農家の統合度合いは生豆を買取る加工資本より高いことが明らかになった。第2に、契約農家にとって、チェリー精選処理の把握は、加工資本からの規制を緩和させる重要な点である。ただし、第3に、インスタントコーヒーなどの大量生産を行う加工資本はチェリー精選処理過程を内部化し、チェリーを買取る傾向が強い。その場合、コーヒー生産経験のない農家もコーヒー生産に参入しやすくなると指摘した。食品加工資本による統合の度合いが強いなか、原料生産物の加工技術のある程度把握することが農家の自主的経営につながる重要な点である。

「第6章 村落基盤型プロイラーインテグレーションの展開」では、郷鎮企業主導による地域を基盤とするプロイラーインテグレーションの性格を事例分析明らかにした。その結果、村落基盤型プロイラーインテグレーションの展開過程は、農外資本による原料生産農家に対する収奪といったプロイラーインテグレーションの一般形態と違って、原料生産農家自らの商品化過程としても考えられる。

こうした地域における血縁・地縁組織の基盤に基づくプロイラーインテグレーションは、農村地域住民の経済的利益の実現につながる重要なモデルになりうる。

以上、本論文各章の要約をまとめた。これらの結果から、中国において非従来型の食品加工資本が加工農産物市場に与える影響として、以下の3点に要約する。

第1に、非従来型加工農産物は中国における生産と消費の伝統的・慣習的性格を有していないため、中国独自の市場や生産体系が形成されなかった。中国に参入した加工資本は、資本主義先進諸国においてすでに確立され、それら品目の資本主義的生産体系と加工農産物市場を同時に中国にもたらしたといえる。

第2に、非従来型部門の加工資本の原料調達行動はその原料生産に大きな影響を与えている。第1に、非従来型部門においては、原料生産者の多くは食品加工資本の誘致によって生産展開した。第2に、その原料生産の展開は、食品加工資本による契約生産など、原料生産者に対する掌握が前提とされている。第3に、個々の原料生産者による生産活動は、食品加工資本の都合によって開始・中断・停止させられ、その生産経営は加工資本に左右されている。加工資本の行動もまた次の条件に規定されている。第1に、原料生産が土地利用型農業に属する場合、非従来型原料の生産形態と生産者の熟練度は従来型の原料よりも、風土的・歴史的・社会的要因によって強く規定される。加工資本の行動もこの規定から逸脱することができない。第2に、非土地利用型農業の場合、原料生産の開拓が比較的容易であるが、多大な資金が必要となる。第3に、原料取引の契約を行政と結ぶことが多いことから、加工資本のほかに、原料生産に対する地方権力者の支配が加われるケースは決して少なくない。

第3に、食品加工資本の影響を受けた非従来型原料生産者の性格変化について、主に過去に該当原料の生産経験を有していない農家は賃労働者化されるパターン、本来農家ではなかった生産者が賃労働者を雇用する農業資本家に転身するパターン、農家が共同的に新しい原料生産を展開し、共同出資によって加工部門を設立するパターンがみられた。こうした変化は、中国食品加工資本の展開過程における農業生産者の組織化・企業化展開であり、実質資本主義発展による農民の分化・分解過程であるといえる。

(注) 論文の要旨は、A4判用紙を使用し、4000字以内とする。
なお、英文の場合は1500ワード以内とする。